

第3回 府中町公共交通協議会 議事録

○日 時：令和元年6月28日（金）、14：00～16：30

○場 所：府中町役場5階 第1委員会室

○出席者：委員14名（欠席2名）

○説 明：府中町 建設部 都市整備課 都市計画係

1. 開会

2. 委員の紹介

3. 報告 ①アンケート調査の結果報告

【事務局】

「アンケート調査の結果報告」について説明

【大東会長】

仕事柄、アンケート調査をよく実施するが、大学が調査機関のアンケート調査では回収率は10%程度である。以前、自治体の回覧板で配布してもらった際は30%の回収率であったが、30%でも多くの回収が得られたと感じていた。今回は、行政が実施したということもあるが、回収率50%は非常に高い。住民アンケート調査であるため、つばきバス利用者が多数派ではない対象者での調査で、この回答率というのは、府中町内では公共交通問題への関心が高いことが伺える。

【委 員】

公共交通協議会が開催されていることを住民は知らない。アンケート調査の際、調査機関が協議会となっていたが、協議会はほんとにあるのかと問い合わせがあった。

【大東会長】

このような公共交通に関する会議は、過去にもあったのか？

【事務局】

公共交通に関するこのような会議は、この公共交通協議会が初めて設置されたものである。町としても、ご存じない住民の方が多いと認識し、町のホームページに会議の開催状況や配布資料の公表を始めている。周知が遅れたことを申し訳ないと思っている。

【大東会長】

つばきバスは運行を開始し、約15年経過したが、やっとみなさんに参加してもらい話をする場ができたと感じる。

【委 員】

住民アンケート調査を無作為抽出で実施したという説明であった。3ページの地区ごとの回収数の割合を見ると、瀬戸ハイムや青崎などの回収数が多い。地区別に一定数の回収がないと、偏りができるのではないか。

【事務局】

無作為でアンケート対象者を抽出したが、抽出後に、町全体の実際の地区別や年齢別の人口分布と乖離がないかチェックを行っている。回答数が少ない地区は、町の人口構成割合が少ない地区となっている。

【委 員】

公共交通の乗り継ぎは重要だと思うが、私は向洋駅をよく利用しており、駅での移動の際の段差に不便を

感じている。高齢の方にとっては、段差は移動のネックとなる。バリアフリーに関する改善の検討もお願いしたい。

【大東会長】

向洋駅の駅舎は、改良計画があるため、しばらくお待ちいただきたい。

【委 員】

つばきバス利用者アンケート調査は、利用している方を対象としているのか。住民アンケート調査とは実施方法が違うのか。

【事務局】

つばきバス利用者アンケート調査は、つばきバスに乗車されている方のみを対象としたもので、住民アンケート調査とは異なる方法で実施している。

4. 議題

①府中町地域公共交通網形成計画【中間報告】について

【事務局】

「府中町地域公共交通網形成計画【中間報告】 1～3章」について説明

【委 員】

平成 30 年 2 月にこの交通協議会を開始し、今回 3 回目ということで、アンケート調査結果の報告があった。アンケートへの回答が多数あり、ありがたいことだと思っている。今回、中間報告ということで取りまとめられているが、府中町の特徴としてコンパクトであるということ、交通事業者の努力もあり公共交通への評価も高い状況ということを実感した。しかし、府中町も全国的な流れの例外ではなく、人口減少、少子高齢化が予測されている。行政としては、公共交通は利用者にとってはより利用しやすいものに、自家用車を利用されている高齢ドライバーにも公共交通を利用してもらえる環境へと改善を進めたい。

つばきバスの運行は、年間約 5,000 万円の税金で賄っている状況もあり、利用者の意見をいただきながら利用促進を図っていききたいと考えている。そのためには、この会議の場においてもニーズ等の意見をいただき、計画や施策に盛り込みたいと考えるため、ぜひお知恵やご意見をいただきたい。

【事務局】

中間報告書の 31 ページにも示しているが、つばきバスの年間利用者は減少傾向にある。今後、高齢化が進展するため、つばきバスの重要性は高まると感じている。

先ほど、委員の方から駅のバリアフリーや公共交通の乗り継ぎに関してご要望をいただいたが、その他にも良い案を盛り込みたいと思っているため、ご教授願いたい。

【委 員】

つばきバスの収支について説明があったが、15 年くらい前につばきバスが運行を開始した当時から、年間 4,000～5,000 万円は税負担すると聞いていた。当然、バス車両の老朽化や人件費の増加などで、必要経費が増加することは想定できたと思うが、対策を考えていなかったのか。経費が上がったので、負担を増やすということでは困る。行政としてどのような対策を講じてきたのか、どういった理由で運賃の値上げを考えているのか、考えをお聞きたい。

【事務局】

まずは、利用者の増加を目指したいと考えている。今まで、利用促進策を講じてこなかったことは事実であるが、この会議を立ち上げたため、会議の場を活用して、改善策を考えていきたい。

ご発言の通り、車両費や人件費の増加により経費は上がっている。広電への委託費用が当初から 700 万円

～1,000万円程度増加しているのに対して、何らかの手を打ってこなかったことも事実である。

今後、利用促進策を検討していき、どこかのタイミングで運賃の値上げについても検討しないといけないと考えている。

【委員】

「いくでえ」の運行を始めるにあたり、国交省との協議を重ねた。当初は、民間が無料で運行することに対し、国交省から反対を受けながらも協議を重ね無料運行を開始した。運行開始当初から考えたのは、車の維持費、保険、燃料費、運転手の確保の問題で、2年単位で考えて資金繰りを画策した。

便利になったからといって、後から資金が足りないからお金を出せということに納得ができない。15年間特に対策を講じてこず、アンケートの片隅に負担が上がるということを示されたので、おかしいのではないかとということで、質問させてもらった。

【委員】

道路管理者としての委員の立場ではあるが、今年度からつばきバスの運営が建設部所管となっているため、つばきバス運営者として現状についてコメントさせていただきたい。

アンケート調査結果では、現在の運賃のままを希望されている方が過半数を超えている。さらに、利便性の向上も望まれている。つばきバスだけでなく、公共交通全体の利便性を高めるということを検討しないといけないと考えている。

つばきバス運行開始後、消費増税が数回行われているが、つばきバスの運賃は値上げしていない。実質的には値下げしているということになる。10月の増税時も運賃の値上げは見送りという判断をしている。

バスの運行については、受益者負担という考えもあるなか、行政としてどうすべきか、また利用者の負担を増やすということの検討も必要となってきた。

そのほか、つばきバスだけでは賄えないところについては、現在もご協力いただいている「いくでえ」のようなサービスもあり、さらに高齢化が進むということであれば、新たな施策が必要になるということも含め検討を進めたい。

利用者を増やし、運賃はできるだけ抑えたいとは考えている。しかし、未利用者も税負担をしているため、運賃の値上げについても検討が必要であると考えている。アンケートでは料金はそのままで利便性を向上というご意見が多い。利便性向上への対策の先には、受益者負担を増加させる時期がくると考えている。

【委員】

中間報告書2ページの計画期間は、文章には令和6年度までの7年間とあり、図と整合がとれていないようだが、どちらが正しいのか。

【事務局】

図は、年度単位で記載していた。表現を合わせる修正を行う。正しくは、令和7年度、令和8年3月までと考えている。

【委員】

つばきバスの右回り、左回りの表現がよくわからないという意見をよく聞く。イオンモール⇒役場⇒みくまり峡というような、地名で表現した方が分かりやすいのではないかと。特に高齢者の利用が多いため、わかりやすい表現にしてもらいたい。

【委員】

府中町の経済も交通もイオンモールから発信、イオンモールに帰ってきているというイメージを持った。つばきバスの経路もイオンモール中心となっているが、イオンモールが中心という考えがなかったころから運行している。条件や本数なども見直していく時期が来ていると思う。見直すことで、利用しやすいものに

なるよう検討してもらいたい。

【委 員】

経緯を知らないため教えてもらいたい、なぜ、「いくでえ」の運行は北部だけの運行になっているのか。南部にも多くの自治会があり、要望はあると思う。

【委 員】

運行開始当初、南部にも話をした。要望があったため、北部と同様に地区内で運転手を探してもらおうよう話をしたが、それ以降回答がなかった。現在運行している 4 つの地域からはボランティアを出してもらい、運行出来ている。普通免許で運転できる。

【委 員】

現在、社会福祉協議会が所有する車両を使っていると思うが、南部で運行する場合は、新たな車両を準備する必要があるのか。

【委 員】

現在所有している車両を使用するしかないと思う。今の車両は、県社協から 250 万円の提供を受け購入している。他の用途では使えないため、出来るだけ多くの人に乗れるよう 8 人乗りの車両を選んだ。柳ヶ丘や山田地区にも話をしに行ったが、運転手がいないと運行はできない。

【大東会長】

要望があっても、運転手の存在などの条件が整わないと運行できないということである。

【事務局】

「府中町地域公共交通網形成計画【中間報告】 4～6 章」について説明

【委 員】

評価指標に挙げられている目標値は、最終年度の数値か？中間での確認を行う予定はあるのか。

【事務局】

最終年度での目標値である。最終年までには、PDCA サイクルを行う中で、中間年にアンケートの実施も想定している。ただ、この中間報告での評価指標は、たたき台として捉えていただきたい。これから検討を進める施策や具体的な取り組み等を踏まえ、修正を行う予定である。

【委 員】

施策案の中に、「駅周辺での P&R 駐車場の確保」とあるが、具体的な場所を想定したものか。

【事務局】

現時点では、イオンモールを想定している。ただし、まだ依頼にも行っていないため、あくまで想定であるが、平日の利用は可能なのではないかと考えている。

【大東会長】

「バスマップの作成・配布」とある。アンケートでも高齢者のスマホ利用状況をお聞きしているが、例えば府中町交通アプリケーションなど、ペーパーだけでなくアプリなどでも閲覧できるようなものを希望する。

【事務局】

前向きに考えたい。

【委 員】

つばきバスの 8 の字のルートを変更して、東西・南北に直線的にはできないか。

【事務局】

つばきバスの運行費用は、運行台数に応じて決まっており、現在の 2 台体制で効率的に運行できるよう、

検討している。

利用実態調査で、イオンモールを中心とした利用が主となっていることが明確になったため、イオンモールへの速達性や効率性を考え、南北を分けて運行することで、便数を増やすことを検討している。その際、南⇄北の乗り継ぎが必要となるため、乗り継ぎ利便性の検討も行っていく。

【委員】

方向性の「路線バスとつばきバスの定時性の確保」に対して、施策で「連携店舗での割引やポイント制度の導入検討」とあるが、関係性はあるのか。

【事務局】

バスの定時性で不満を持たれている利用者は多く、バス事業者としての見解はどうか。

【委員】

運行上の大きな課題となっている。遅れの原因としては、イオンモールへ来るお客さんの集中や、野球、天候などの影響が大きい。現在、広島高速の間所 IC の利用が多く、高速 5 号が開通すると緩和されると思うが、他に手立てはない状況である。

【事務局】

渋滞解消のためのハード面の対策としては、高速 5 号の他、新大洲橋の改良があるが、ソフト対策として、公共交通に乗ってもらうことで施設に集中する車両数を少なくしたいという思いがある。バスを利用して買い物に行ったらポイントアップなどの施策ができないかと考えている。これもまだ構想段階であるが、他の地域では提携している店舗もある。今後、実現可能性について、関係者と協議していきたい。

【大東会長】

次回の協議会までに、計画素案をとりまとめて提示する予定であり、関係者と協議・調整を進めて欲しい。

②つばきバスのダイヤの変更について

【事務局】

「つばきバスのダイヤの変更」について説明

【大東会長】

府中町での公共交通に関する会議は、この会議が初めてということであるが、以前、このようなダイヤ変更を審議してもらう場はなかったのか。

【事務局】

なかった。

【大東会長】

審議してもらうことができる、良い場ができた。つばきバスのダイヤ変更について、問題ないか。

【委員】

（賛成者多数（挙手）により了承）

5. その他

【事務局】

次回協議会は、8 月開催を予定している。本日頂いた意見を踏まえ、方針や方向性、施策等を取りまとめ、計画の素案として提示する。

6. 閉会